

Johkasou :  
Packaged Domestic Wastewater  
Treatment System



Daiki Axis Co., Ltd.

# ① 海外展開戦略＜東南アジア市場開拓＞

- ASEANにおける関税撤廃を利用して、成長力ある東南アジアを中心に販路拡大をめざし、インドネシアに新工場を建設し積極的なアジア展開を図る
- 日本の高い排水処理技術を生産品に導入、市場で必要とされる機能に絞り込んだ低価格製品での販路拡大をめざす

## 海外展開沿革

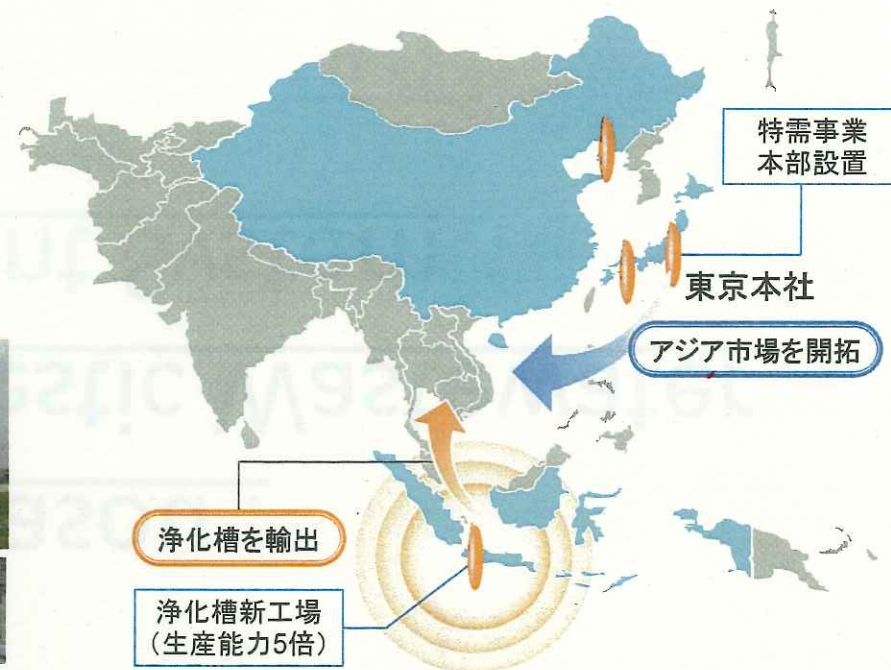
1991年4月	大器環保工程有限公司(中国大連)設立 中国国内への浄化槽販売開始
2013年12月	インドネシアの浄化槽製造メーカーベスティン ド・アクアテック・セジャテラを買収
2014年12月	インドネシア新工場竣工(生産能力5倍)
2015年1月	インドネシア新工場稼動・東南アジア向け浄化 槽の生産開始
2015年4月	東京本社に海外向け営業を行う特需事業本部 設置

- 東南アジアでは下水道普及率が低く浄化槽のニーズが高水準で推移することを予測
- 年中温暖な東南アジアでは低温時の対策が不要、機能を絞り込み製造コストを3割程度抑制、低価格で拡販を図る



**Daiki**  
**AXIS**


## アジア市場開拓本格化



## ② 海外展開現状

- 現地生産にてインドネシア国内への啓蒙活動と販売の積極展開
- 東日本特需事業本部によるアジア市場開拓プロジェクトが本格稼働。マレーシア・ミャンマー・ベトナムをターゲットとし、販売ルートとしてのパートナーカンパニーを開拓。インドネシア生産拠点を生かしASEAN優遇税制享受
- シンガポールに海外統括会社を設置（2016）、コーポレート機能を一元集約、域内子会社の支援管理を図る

### アジア各国における販売戦略


 **マレーシア**

- 環境省モデル事業にて、マレーシアでの製品認証取得の実証実験中、現地での販売を計画中




 **ベトナム**

- GDP成長著しい中、排水規制（BOD、窒素、アンモニアなど）の厳格化が進展。処理性能の高い日本仕様製品への期待が高い

 **ミャンマー**

- 経済発展に伴う汚濁量増加に伴い、政府による規制運用が強化、BOD20が標準化
- 「スー・チー新政権」移行に伴う公共事業予算執行進展

 **インドネシア**

- ローカルにない高品質製品を現地生産にて販売
- メンテナンスを含めた、浄化槽の運営システムノウハウを生かしたローカルとの差別化による営業展開中

### ③ 納入実績

■ インドネシア新工場（本格稼働後（2015/7～））から東南アジアへの納入実績

<p>THILAWA Project            国：ミャンマー            処理：188m<sup>3</sup>/day            用途：工業団地内商業施設</p>		<p>ヤンゴン市銀行            国：ミャンマー            処理：10m<sup>3</sup>/day            用途：銀行</p>		<p>マレーシア実証実            国：マレーシア            処理：35m<sup>3</sup>/day            用途：集合住宅</p>
				
<p>Nugpr公園浄化槽寄贈            国：インド            処理：10m<sup>3</sup>/day            用途：公園施設他</p>		<p>Hotel Project            国：インドネシア            処理：300m<sup>3</sup>/day            用途：ホテル</p>		
				

#### ④ 浄化槽普及への問題点と要望事項

##### 現状

- 東南アジア諸国で生活污水处理の必要性は高まっており、放流水質基準や污水处理装置設置義務は明確化されてきている。
- Onsite処理の有効性や日本の浄化槽の能力の高さについての認知度は高い



##### 問題点

- Onsite処理の製品についての認証制度や保守管理義務が無いもしくは緩く、処理能力不十分や製造不良製品が出回っている



##### 要望

- 浄化槽の製品のみでなく、日本で運用されている浄化槽法に基づく全体システムの必要性と有効性をご説明いただき、各国で同様のシステムが運用され適切な製品が設置されるようになることを要望しております